

コミュニケーション分野 | イベント・ワークショップ(継続) 274
ウッドスクエア総合学習プログラム
 ポラテック(株)、ポラス(株)、ポラスグループ



概要
 木工体験に木の学習を掛け合わせた、木を扱う企業であるポラスグループが発案した独自の小学生対象の学習プログラムです。①自ら感じさせ、考えさせる。②自ら興味を惹かせる。③習ったことを再度学ばせる。をヒントに、「木工体験」ではカンナなどの専用工具に親しみ、木を扱う感覚、モノをつくる喜び、創造力を育みます。同時に行なう「木の学習」では、「人と木の間」という名の学習専用室にて、木に触れ、実験も行ないながら会話形式で楽しく進めます。これらの体験を通じて子供たちが木に興味を持ち、活躍してくれることを願っております。

◆http://www.city.saitama.jp/001/009/006/p034932.html
評価ポイント 小学校向けプログラムとして、木に関する学習の相互補完機能として有効である。社会、理科などの教科に資する専門家が提供する内容が充実している。

コミュニケーション分野 | イベント・ワークショップ(継続) 271
まちなか木育ベビーサロン はんのうきときとひろば
 ねんりんワークス、(株)ハンモク、(有)シミズ工務店



概要
 「木育」をテーマにした、赤ちゃんのための遊び場です。渡りあご工法で建てられた材木屋さんの2階にあり、窓からは桜の木と小川のせせらぎが聞こえます。西川材のスギ材の床の上でハイハイしたり、上質な国産材のおもちゃで遊んだり、ママが作るおもちゃづくりワークショップも好評です。木組みの家の雰囲気の中、無垢の木の心地良さを感じながら、ゆったりとした時間をお過ごしください。

◆価格:入場料200円(大人ひとり+子ども3人まで)、ワークショップ500円、入手先:直接ご来場ください http://hannokitokitohiroba.jimdo.com/
評価ポイント 木育指導員の経験者が中心になって設置された木の遊び場であり、継続的な活動として応援したい。子育て層の交流拠点にもなる。

コミュニケーション分野 | イベント・ワークショップ(継続) 275
“みやざき”をつなぐ『バス停』創造
 “みやざき”をつなぐ『バス停』を創る会、宮崎交通(株)、(一社)宮崎県建築士会、宮崎市



概要
 私達が目指すバス停とは… 置かれる場所の状況に合った機能的なバス停・単体としても連続しても宮崎の景観をつくるひとつのファクターとして美しく、地域の景観まちづくりに貢献できるバス停・県内のバス停(約5000基)に普遍的デザイン要素を持つバス停・多くの人のアイデアや作業を通じて製作されたバス停・杉生産日本一の林産県として地域の産業や技術向上に貢献できるバス停・公民協働プロジェクトのまちづくりの在り方として今後ひとつのツールとなるバス停。

評価ポイント 地域の移動拠点であり、景観の一部でもあるバス停に着目し、これをコミュニケーションツールとするプロセスを評価した。伝え方をさらに磨くとともに、継続性に期待する。

コミュニケーション分野 | イベント・ワークショップ(継続) 272
人と木をつなげるプロジェクト
 人と木をつなげるプロジェクト実行委員会、森のひろばwoods square、first-hand、(株)小野デザイン事務所、One Vision/久野ゆか、安藤久氏、豊田森林組合、あさひ製材協同組合、向井木材(株)、豊田市



概要
 豊田の森を知り、木に親しみ、そして流通をデザインする。豊田市は車の街の印象が強いが、森林面積が約6万5千haあり、杉・桧の人工林面積が約3万5千ha。年間原木生産量は2万5千㎡で県内最大である。「森のまちとよた」と言っても過言ではない。しかし、現状は原木生産、小規模製材所、木材加工業、大工など人手が不足し、また地域内の木材流通の仕組みが構築できずにいる。そこで独自のブランド「hitotoki」を立ち上げ、お互いの顔が見える市内完結型の木材流通構築を目指す。

◆http://hitotokiproject.org/
 https://www.facebook.com/hitotokiproject/
評価ポイント 多角的な視点から木材流通をデザインした取組で、完成度が高い。地域全体を巻き込む顔が見える関係構築は重要な視点である。

コミュニケーション分野 | イベント・ワークショップ(継続) 276
森のスポーツパチンコ(通称:森パチ)
 森のスポーツパチンコ協会



概要
 シニアには懐かしく、キッズには新しく進化した森のスポーツパチンコは、森林整備で出る、捨てるはずだった枝の一部であるY字本体部分に付加価値を付け販売する事で、森林整備の一助とする為に産まれた商品です。各地の林業団体や森林整備団体にフランチャイズ方式で支部を作って頂き、地域のイベントで大会やワークショップを行い、体験してもらいます。老若男女が楽しめる林業応援のスポーツを構築する事を目指しています。支部によって頂ける団体募集中です。

◆価格:1,980円、入手先:amazon、http://moripachi.net/
評価ポイント スポーツとしてのパチンコを木材活用、森林整備につなごうというユニークな試み。地域ごとの展開を前提としており、森をフィールドとした新たなエンタテインメントとして発展して欲しい。

コミュニケーション分野 | イベント・ワークショップ(継続) 273
日本の木の音あそびツールを使ったコミュニケーション促進のためのワークショップデザイン～音あそびが引き出す創造的コミュニケーション～
 北陸先端科学技術大学院大学、オークヴィレッジ(株)、さんのきファクトリー合同会社、まちづくりNPOげんき宮城研究所



概要
 子どもたちの音のメカニズムへの気づきから、「木」への興味や理解につながっていく過程を具現化できるツールとワークショップです。鍵盤の長さが同じで木の種類で音が異なる取り外し可能な鍵盤と、連結可能な特殊な階段式鍵盤台からなる。鍵盤を並べて上部から落とした玉が転がり半自動的に曲を奏でることのでき、台を連結して他の子どもと繋がる。

◆価格:500,000円(税抜)/1セット、入手先:北陸先端科学技術大学院大学、さんのきファクトリー合同会社、オークヴィレッジ(株)、まちづくりNPOげんき宮城研究所
評価ポイント 音をモチーフにしなが木が持つ価値への気づきを与える、新規性ある取組。子どものコミュニケーション力を育むプログラムと木の特性を巧みに組み合わせた。

コミュニケーション分野 | イベント・ワークショップ(継続) 268
「もくもく広場」プロジェクト
 (株)重川材木店



概要
 地産地消の家づくりを行う重川材木店は、自社で山林の育成、製材、設計・施工まで一貫して行う工務店です。社内の人材・資源を活用し、親子のコミュニケーションを回り、子どもたちを親孝行へと導くプログラムを作成し、活動を行っています。「もくもく広場」と名づけたこの取り組みは、地元の木を使った木工教室や混んこになりながら行う田植えなどを実施。木育・食育を家族協働で行うことにより、家族の温もり、ふるさとの大切さを再認識し、親子の絆を深めるきっかけへと導いています。

◆http://www.omokawa.co.jp/
評価ポイント 親子協働で「子ども上様式」や「里山つみき」といった木育活動を実施しており、イベントプログラム自体のデザインに優れ、ユニークである。

コミュニケーション分野 | イベント・ワークショップ(継続) 269
吉野山守モニターツアー
 中神木材、家具町工房 賀来寿史



概要
 「山のこと、木のことを、吉野の山で伝えたい」そんな山守の想いが木を知る一人の家具職人との出会いから実現した事業。吉野林業の特徴である300年続く山守制度、守り受け継いできた山守コースを歩きながら、木が育つ過程と山仕事について語り、林業という時間軸を肌で感じてもらい、山や木との向き合い方を考えてもらう。そして木の特性を知ってもらうために山でチェンソー製材し、その材料を使い、つくれる家具職人指導のもと木の椅子を完成させる。山で全てを完結したい「山守」と「家具職人」の想いがコラボしたツアーである。

評価ポイント 地域林業を支える山守との協働で、木とそれに関わる仕事を後世に伝える社会的意義の高い活動。さらに家具づくりにつなげ、自分事になっている。

コミュニケーション分野 | イベント・ワークショップ(継続) 270
「木の家・こんな家に住みたい」作文コンクール及び表彰式
 一般社団法人 日本木造住宅産業協会



概要
 本コンクールは、10月に行われる「住生活月間」行事の一環イベントとして1998年から実施しており、今年度で18回目を迎えます。「木の家や建物」をテーマに1,200字以内で作品を募集。対象は全国及び海外日本人学校の小学生。募集期間は6月初旬から9月初旬。9月下旬に審査会を開催し、入賞者を決定。10月下旬に入賞者及びご父兄を招待し、東京で表彰式を開催しています。1月中旬には入賞作品集を発刊。応募者全員に参加賞として「かわくと木になるエコ粘土」を送付。将来の住文化を担う小学生への木育と住教育の一端を担うものであると自負しています。

◆http://www.mokujukyo.or.jp
評価ポイント 自分自身で言葉にするという行為は、とても重要なことである。継続性もあり、シンプルだが有益な活動である。

コミュニケーション分野 | イベント・ワークショップ(継続) 265
笑働の森プロジェクト
 ORIGAMI Lab.合同会社、北野木材、桃山学院大学、大阪産業大学、大阪府立大学工業高等専門学校、大阪府立大学、樋口よしのぶ、清水保彦、Oh!Bento Labo、松下木材(株)、大阪府風土事務所



概要
 笑働の森プロジェクトとは、大阪府和泉市横尾山を舞台に、森の資源を活用し、森の活動人口を増やすプロジェクトである。具体的には、地域住民、地元企業、学生、まちづくり専門家、デザイナー、行政が協働し、「森をつくる(荒廃林の再生・保全)」、「森をつかう(木材・食材、風景などの森の資源を利用したものづくり学校「森のデザイン学校」)」、「森を見直す(生活における森の新たな利用方法を提示した地域冊子づくり)」の3つの行動に取り組むことで、森の健全化と森の新しい価値を社会に提示し、地域の課題解決を図っている。

◆http://mds.origamilab.org/
評価ポイント 多様なステークホルダーが協働して、冊子づくりを行なうなど日常にメディアを組み込んでいる点がしっかりしている。地域としての森との関係、森の楽しみ方の多様な提案が見られる。

コミュニケーション分野 | イベント・ワークショップ(継続) 266
いっぽんの木から
 黒越啓太



概要
 福井県鯖江市の山間地域において放置されつつある杉山の杉を、一本単位で山の持ち主が主に使用できるものを製作した。山主とともに木を伐り出し、製材して、作品をつくり、地域へ設置する活動。先代から山を引き継いだが、現在の持ち主は林業等とは無縁で自らの山の範囲さえも把握できなくなっている。現状的な放置林問題解決策等ではなく、個人で扱う事のできるミニマムな提案として、新たに地域の材が地域に貢献する暮らしを提案した。

評価ポイント 作品を拠点として集いが行なわれ、コミュニケーションツール化している点が面白い。デザイン性の良さも評価できる。

コミュニケーション分野 | イベント・ワークショップ(継続) 267
木育おもちゃカフェニッセにおける木育推進活動
 子育て支援ステーションニッセ、特定NPO法人日本グッド・タイム委員会/東京おもちゃ美術館、ベビートイApty、おもちゃ作家/宮崎剛、木工作家/吉川和人、木育建築家/川上素子、NPO法人ちば森づくりの会、(株)リッカー級建築士事務所



概要
 地域に残された社会資源を活用し、東京おもちゃ美術館の監修の元リノベーションを行い、2015年5月、千葉市中央区に「子育て支援ステーションニッセ」を立ち上げました。木を使った癒しの効果を主眼においた子育て支援を行い、皆にとって心休まる居場所となっています。ここでは国内外の良質な木のおもちゃを使って、おもちゃコンサルタント達が豊かな遊びを提供しています。また、ちば森づくりの会との連携で地域の里山を訪れる機会を得、そのごのさまざまな体験を通して「森を元気にしよう」という気持ちが生み出されています。

◆http://nisse.club/
評価ポイント 木育拠点を常設化することで継続的な体験と気づきを生み出す装置になっている。外部との連携で実際の森を訪ねる機会を設けた点も良い。